



新板

那智御山手管瀧

一巻



Red seal impression at the top of the left page.

席

Main body of handwritten Japanese text on the left page, written in vertical columns.

Right page of the manuscript, mostly blank with some faint markings and a blue strip at the top.

七  
濱谷富

本喜

富谷

序

煩悩却る苦年とさむる性者の  
 物ごうり我今喜曲の厨室相いりて  
 中人今も袖をぬくす老若武者  
 筆を志桑より法師の如智の海  
 して意行れ時凡俗乃知れ様も我  
 洗ひ流せし無業自らに現す危那の

總長庭文庫

八文字屋  
海老之中

富谷

於戲新ゆげ あたしあらたしあらたくくししてて妙智みちのの清心きよこころをを愛あい  
 乃なほ清きよととくく乃なほ付つ五ご冊さつととるるぬぬ海うみのの傳つた  
 程ほどのの縁ゆかりよりよりもも縁ゆかりよりよりいい是これ行ゆかん

享保十八年の

と  
始

作者其蹟  
 作者自笑

妙智みち清心きよこころのの清心きよこころのの清心きよこころ

一之巻

目録

第一 目めにに立た帽ぼうし子こはは妙智みち清心きよこころのの清心きよこころ

吾われ子こはは妙智みち清心きよこころのの清心きよこころ

花はなよりより色いろとと一いつ見みにに一いつ朝あさ堂どう屋やのの風流ふうりゅう男おとこ

俄突然のの難なん風ふう運うんののつつきき編へん結むす中なか浦うらのの大おほ和わ

才二

みほ家お勤の入算お勤の常の袂たもとひ

奥おくの款まげきい笑わらひ小なる祝あはれの至いたり

きをきなほめぞふつてはまゝぬあま

き後ご入算いさんまぬの結むすびを金かねい思おもは公

才三

ぬき押つて海うみの松まつと根ね引ひけ下しも海うみ波なみ

色いろのいなはははゆゆゆゆ二人ふたりが中ちゆう

子こ連づのいをらむれおに白しろ龍りゆうのたれたれ

色いろのいなはははゆゆゆゆ二人ふたりが中ちゆう

① 目めふら帽子ぼうしはのまま深ふかいは友とも見みの女中ぢゆう

ゆゆの翠侍さむらいは高皮かわとしるる男おとこ女めの嬉笑わらひたがしは喚  
聲こゑと情と東坡とう居士こしのすづんままかましけききも生と  
至いたりてより度よめすでままふふとう響ひびくやへへ今いまにおのて  
その敷かきりはここ子こ世よとんのままま何なに事こともおてんとうふ  
つつるる情なされる人ひとも女の向こむ内うち股またとんその依よのも地ぢ獄じやくの  
ままししりりとれとれとまのろまま陸りく入いははてて情なされる景けいの衣れ襦  
衣いえやめがここ人ひとよいんんササ内うち佛ぶつはは増まふふとういい福ふくの祿  
の名いいままああぐぐのさららいい笑わらいい神かみのこささんんとうままるる友ともの  
後ごよりはままししりりとれとれとまのろまま陸りく入いははてて情なされる景けいの衣れ襦  
そのままま人ひとよいんんササ内うち佛ぶつはは増まふふとういい福ふくの祿

知子の行するゆへに。相よりわたりての名。破の標師といふ  
白拍子の才子とあて。舞多に仕立上つるの。はかばかおどろおどろ  
わけくる。衣の装も大のた。紅七の下。白拍子の白拍子  
思ふそき。襦袢とひて。赤い。二色。白。縄。じろ。ひす。ひあ。て。金。作。の  
本。服。指。白。拍。子。中。と。さ。げ。髪。中。和。と。る。も。わ。り。ほ。じ。て。あ。る。の。や  
は。え。る。も。わ。り。ける。衣。川。の。屋。敷。の。よ。に。お。す。く。天。性。拍。子。ま。き。に。て。舞  
子。の。中。に。て。名。を。た。一。日。も。清。く。法。鏡。ま。ま。う。れ。る。或。何。男。州。又  
十。四。那。の。さ。者。京。の。表。衛。の。を。智。金。次。の。席。を。舞。と。り。若。者。病。を。い。ち  
て。あ。い。生。の。さ。ら。ば。年。の。い。と。を。秘。ひ。た。り。と。あ。る。の。淫。息。入。湯。し。  
大。洗。と。お。を。お。い。ち。り。く。這。面。で。内。被。衣。川。と。ま。ひ。き。一。日。舞。て。見  
より。う。く。あ。ら。ま。子。を。い。ち。て。書。又。う。り。も。い。ま。い。て。淫。息。へ。つ。れ。さ。り。  
我。は。下。の。名。を。作。り。も。ゆ。う。き。流。う。め。と。その。ま。衣。川。と。よ。し。て。舞。も

せ。が。程。々。二。人。中。に。老。人。の。女。子。と。ま。う。け。珊瑚。の。珠。と。秘。藏。し。て。舞  
ま。風。あ。し。わ。せ。ぬ。ま。う。に。秘。藏。し。たり。ゆ。う。小。丸。布。を。舞。と。り。舞。の。仕。様。に  
よ。り。て。俄。に。信。人。の。男。と。お。い。は。わ。さ。く。女。房。衣。川。の。西。縁。と。た。り。に。歌  
の。あり。舞。歌。の。由。一。門。の中。に。ま。ま。の。中。に。内。縁。と。い。ひ。入。被。衣。と。際  
ど。ろ。布。に。丸。布。が。ひ。つ。ま。を。終。は。む。あ。く。あ。ね。衣。川。が。う。げ。と。名。を。い。ち  
身。と。さ。き。條。と。あ。て。夫。の。ほ。舞。と。ま。り。と。お。ひ。わ。れ。た。一。人。の。娘。い。ま。さ  
幼。ぶ。る。れ。の。せ。せ。く。す。三。回。ま。た。書。き。り。よ。あ。ん。方。下。あ。い。さ。せ。ま。よ。た。て  
見。は。流。し。お。し。う。ん。と。う。く。淫。息。の中。に。ま。ま。い。と。ま。ま。舞。と。り。舞。と。り。世  
舞。ま。の。果。の。母。を。れ。ば。老。人。の。ひ。と。ら。づ。ひ。舞。舞。舞。舞。と。お。く。る。ら。う。よ  
ま。此。の。よ。ま。と。上。層。で。あ。る。れ。が。お。の。中。に。お。女。房。が。あ。つ。と。い。ひ。あ。い  
及。び。世。舞。の。ま。と。ひ。ん。ま。ら。せ。て。ば。娘。ひ。ら。く。あ。ら。う。か。ら。ち。う。と  
又。一。人。魂。い。ち。り。ま。ま。母。衣。川。と。い。ふ。名。を。い。ち。り。と。娘。と。舞。舞。舞。と。い。ひ。た。ま

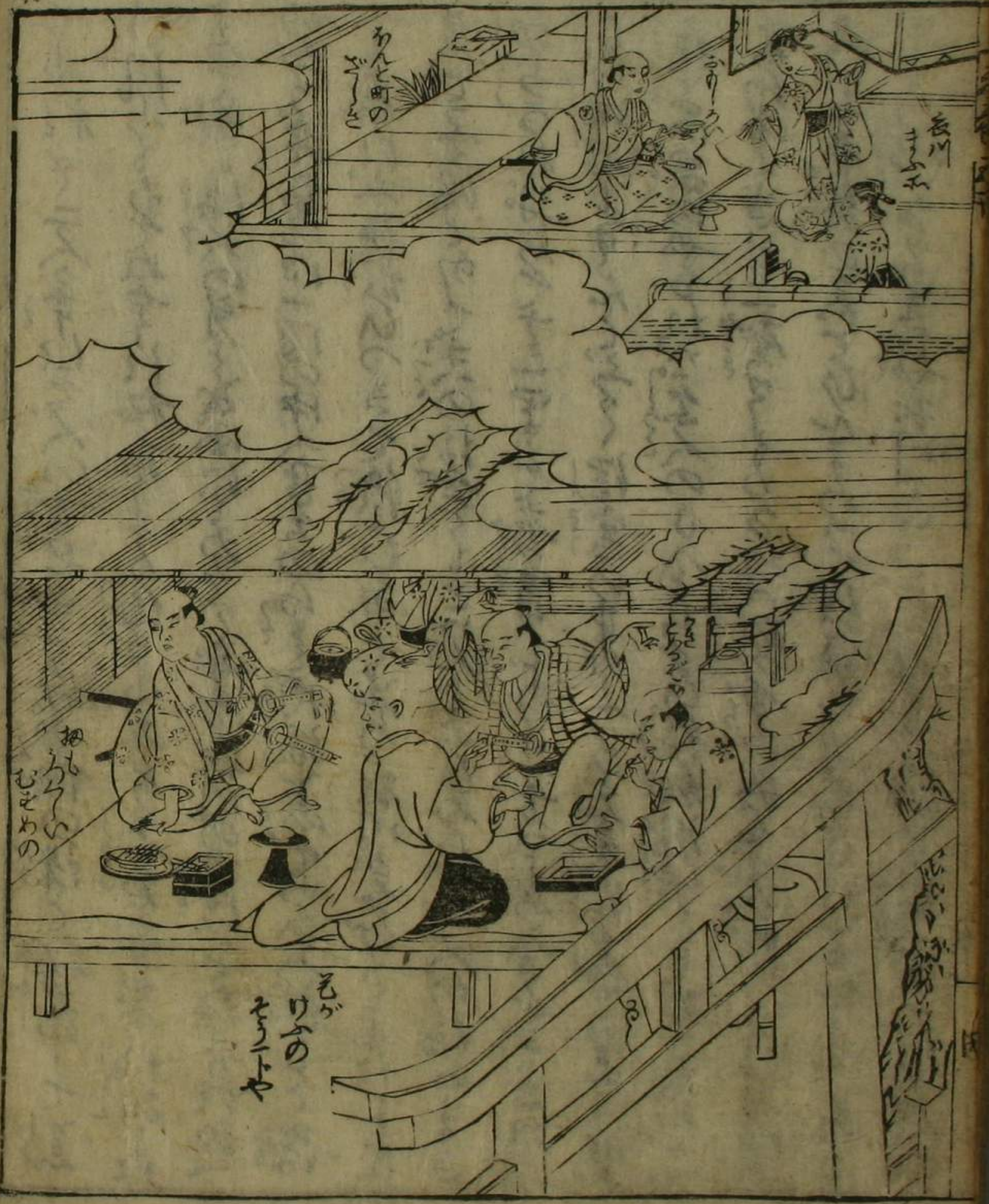


あまの  
く

あまの  
く

あまの  
く

あまの  
く



あまの  
く

あまの  
く

あまの  
く

あまの  
く

南はるけりおと久の心もくはるまうくはる事井の者今とびら  
中のおと久おと久とびらひたさるれの人とら事井に又逢の心と  
見せて是法は原の下ゆれ事井が系とびらりまふ事井をこら  
つきてはげ急はれらるれ事井の合室のたまはれはる。はるの村  
はとらる大長親よりゆづるのあふまを。一日もまはれをらるる。げ  
いはとらて若んゆりの地女と見ん。と。はるのけさそふ事井  
三人つれ。三朝事屋へ出け。祇堂村。産儿とを。行人はるれ  
けさそふ。目利はれとねんゆりとゆら。一志の魁とら。大と事井  
そふ。おと久のあふ。と。おと久の二群のあふ。は。そとら  
もく。とら。い。い。女。り。事。ら。と。破。は。を。て。わ。れ。れ。目。に。入  
と。事。井。中。に。ま。ご。さ。ら。事。井。發。す。き。あ。は。し。え。と。わ。お。り。じ。お。乃  
緒。と。と。む。い。お。發。る。事。井。の。と。ら。る。中。に。は。げ。さ。る。今。逢。ひ。て。ゆ。る。

是 叙る状指の柄格。事井の小神屋とほく。とら。産。子。ゆ。ら。と。  
事井中から持来。まづ。い。ら。う。と。い。ひ。ら。く。い。さ。ま。あ。高。世。の。英。人。帽。子。は。  
の。ま。う。く。若。の。入。房。つ。ら。じ。と。お。と。久。の。あ。は。れ。づ。ら。の。風。紙。  
人。物。あ。ら。は。け。世。屋。も。も。に。け。と。ま。れ。今。の。老。成。は。若。く。と。  
たま。と。ま。い。り。事。井。の。後。大。長。も。万。石。や。ら。は。は。れ。お。と。久。も。わ。と。  
あ。つ。ま。ひ。の。若。君。の。あ。と。ら。と。け。ま。れ。わ。さ。ら。い。の。い。ら。を。人。と。  
あ。つ。て。は。れ。事。井。い。ら。と。と。ら。う。の。あ。は。れ。と。ら。い。ら。を。事。井。と。ま。ら。さ。  
ま。ご。さ。ら。事。井。の。い。ら。と。と。ら。う。の。あ。は。れ。と。ら。い。ら。を。事。井。と。ま。ら。さ。  
人。り。と。ら。事。井。の。は。ら。の。娘。と。ら。お。と。久。の。あ。は。れ。と。ら。い。ら。を。事。井。と。ま。ら。さ。  
より。ま。う。ね。お。と。久。の。件。の。娘。と。ら。お。と。久。の。あ。は。れ。と。ら。い。ら。を。事。井。と。ま。ら。さ。  
い。つ。ら。い。け。ら。ふ。夜。川。お。と。久。の。娘。と。ら。お。と。久。の。あ。は。れ。と。ら。い。ら。を。事。井。と。ま。ら。さ。  
娘。の。あ。は。れ。と。ら。お。と。久。の。娘。と。ら。お。と。久。の。あ。は。れ。と。ら。い。ら。を。事。井。と。ま。ら。さ。







いふをたしめし。お落ししけ。男と云ていふ。さうす。中道。さう。七万。家。と。いひ。  
おせのね。と。せ。て。家。も。か。つ。か。つ。り。じ。と。契。多。が。い。ひ。者。だ。く。れ。り。  
同。志。下。の。時。に。は。あ。ま。め。と。い。ふ。細。子。に。め。て。歌。の。ま。つ。む。し。り。と。い。ふ。事。も。  
ふ。じ。の。の。う。け。を。し。ら。い。の。う。さ。ら。中。の。さ。し。と。て。後。を。と。ま。さ。る。ま。ま。に。  
懐。胎。の。家。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。と。い。ふ。母。の。親。性。は。月。の。さ。う。く。お。の。中。う。  
女。男。子。と。も。う。け。ら。れ。る。事。と。い。ふ。ま。ま。の。家。の。定。む。の。ま。ら。し。は。誓。を。後。  
さ。う。と。て。ね。め。り。じ。く。さ。う。さ。う。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
く。お。お。お。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
ゆる。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
く。一。家。一。門。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
て。お。お。お。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
と。お。お。お。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。

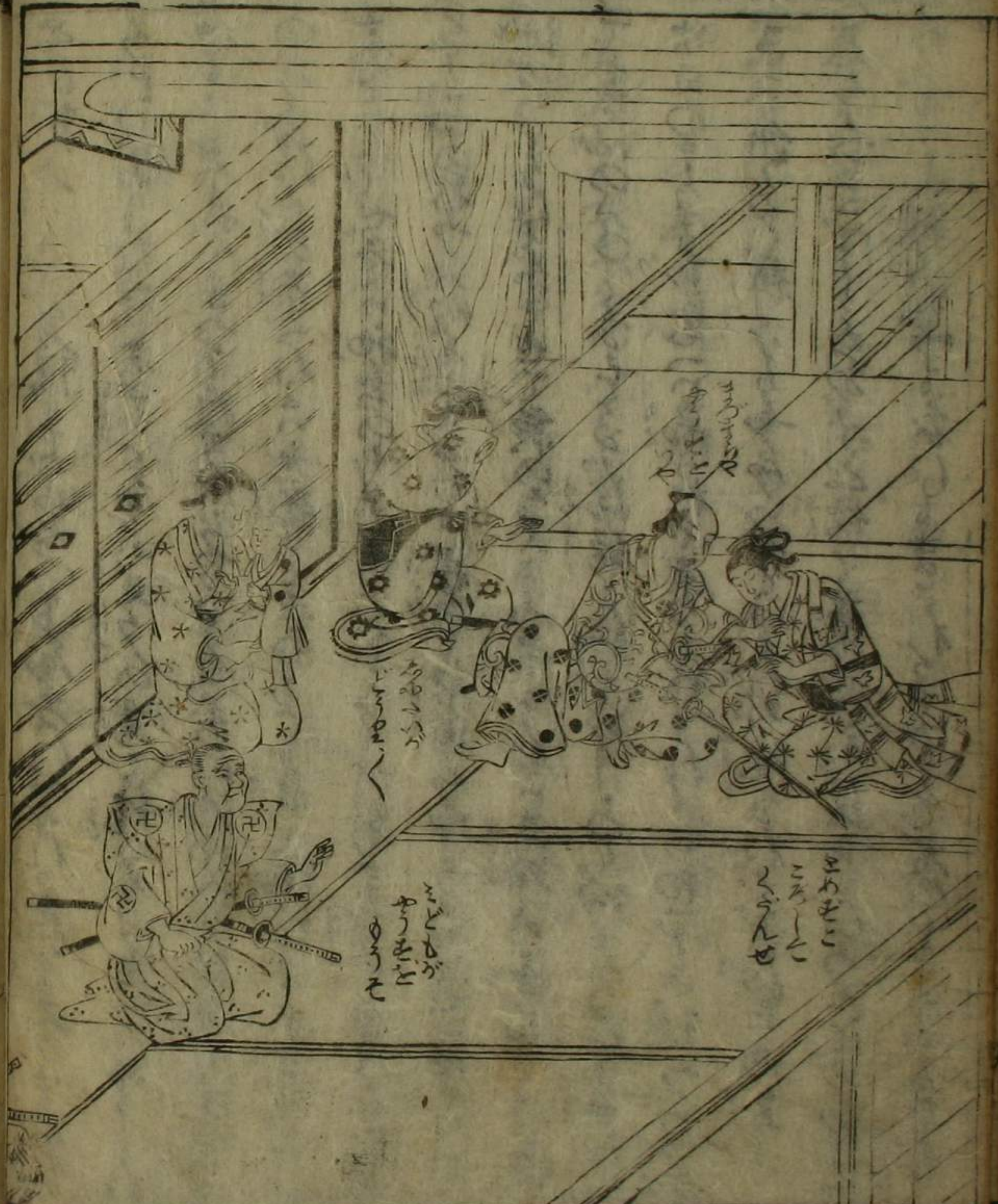
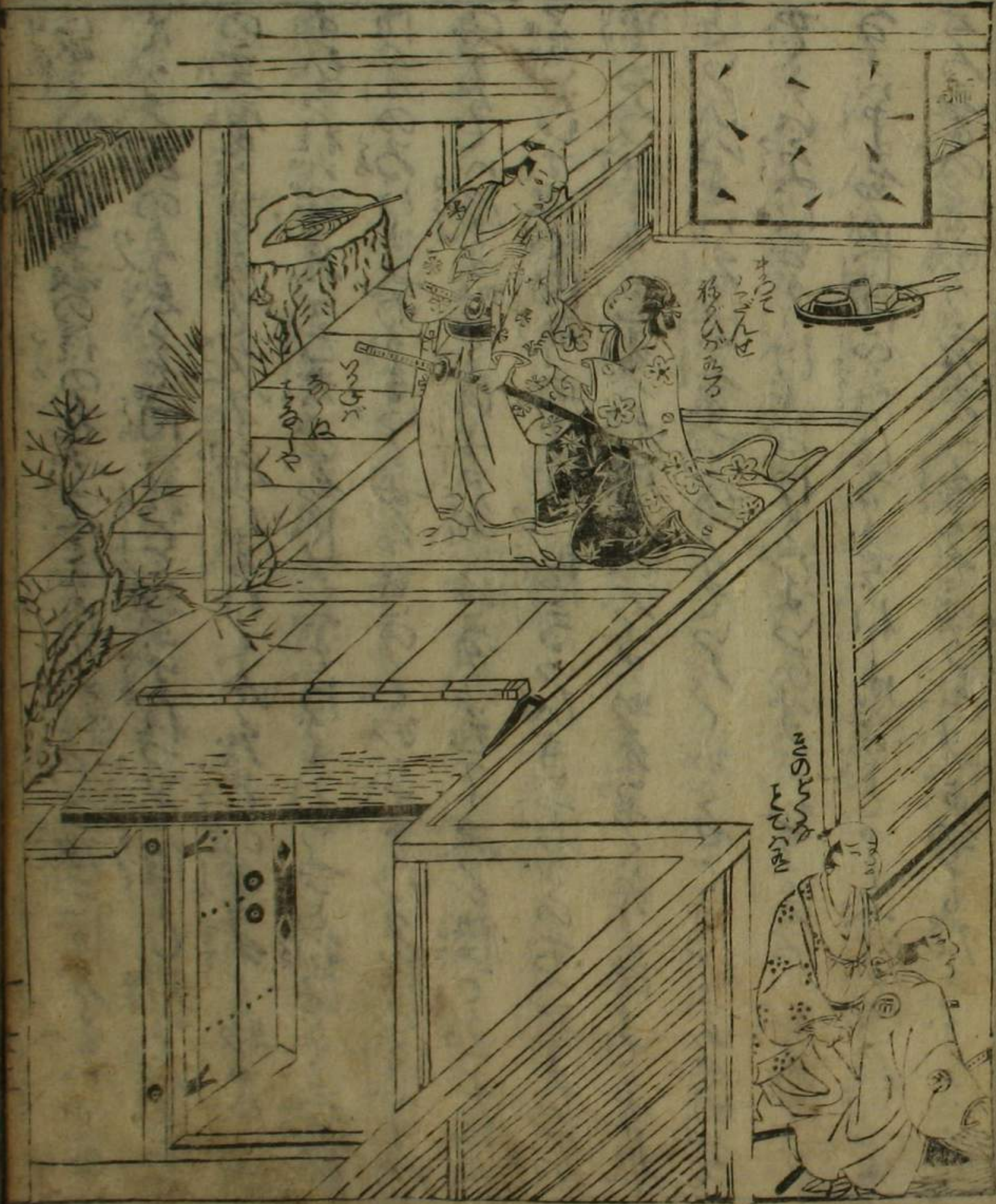
あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
さ。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
肝。と。つ。づ。と。中。に。ま。け。て。お。お。お。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
か。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
さ。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
て。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
か。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
た。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
飛。と。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
さ。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。  
お。あ。あ。あ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。の。ま。あ。は。れ。



七の思きこつて我ましの髪かめてそくついつくま  
 る世とていもの中れんりもろが若衆の袖よりも入ていあ  
 くらひわらりと肥がつつてうれいとよみんふまかどろくくげい  
 けあいのききあひ酒とてうりてあしとくが中てききさの刃の柄  
 とててすらりと接自害とんとあふまど。ききをあしとてとあ  
 そいけりゆは害よ及んといあふまどあまの肝がつかれまわ  
 かりけりまじりこ。刀にまうんをさせいおまよふてびりやと  
 合ともしんがらひい。いあまこてけりれと後入はかりにままふ  
 のの中とてあむるれ衣川の移るいふまのともあてをいけ  
 てぞあけける。一門の中をまふまのあけいをえとていあふま  
 ら。その方終地浦とて。海産にまぐも果ぐらははははまうん家の  
 新造でんり。法秘教のいへ。にやとめてまのいせとていあふま

までとろくはれと我と扱、教訓してそ夜の佳名とわ続とらう  
 七まへの考考ほれとてまらうと真まのいはいとむりいさめ  
 別まのたれ思よははら耐流と入解ふむひん加若衆はかたま  
 らふま。そのあふとてい一子を知まれば。今より名若衆の流かまを  
 益中て流はし。相と方らう。いけは若衆へ奉還して。そのあくと天子  
 の礼令はまはし。それい我まのいけりて。若衆のいけりて  
 まをい。まをまきふ化替てまらうとわとまらう。まらうのまらう  
 面まらう。い。まをまきふ。まをまらう。まらう。まらう。まらう  
 杯とれ。まをまきふ。まをまらう。まらう。まらう。まらう。まらう  
 即まをまらう。まをまらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう  
 う。まをまらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう  
 まをまらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう  
 まをまらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう  
 まをまらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう











じて居るんて大々は縁我と抱られ親く友あれた。白の髪  
 も髪をぬいも賣きやれとけふと引つけあつたゆいりい  
 ついごちとわらわらあひまゆもよぐぬ髪を振舞ねと移りたこけ  
 なる合はしてゆりあつた。申くはねとせしやふたのこけも  
 おゆ入りの色。むかしの里方の波ゆりたはさあへ四郎と高たのこれ  
 といはれたこどももゆれの家来。はらひあはさるるのほおと  
 のでいにおなられたらばねはなほあけいおるあつた。年あつた  
 ぶとてこまのしごとが家にはぼくきまふる川の流れよみてを  
 さいごうのりていふ。誰とのぼしゆいものも。振くとおもやうら  
 ぶれた。振あつてよいお別もあひまらあねと親はははくあつた。の  
 けさあもゆきてこりば。いと。碎のこめるまのあてまふりたの  
 ぶらよる。はらんとあはね。はらあこのこりわく。里あつた中あつた。

波やとあつり。さうは言ひ何方へもゆきのひのそり。は修修の  
 むい中にとりては。後もよりやと肝をつぶされ。罪風よわつてあつた。  
 吹あがされた七年経てゆりよや。さやのゆりあつたゆきあつた。縁が  
 怪しおをともかみ。お世のさねいさあゆも。あつたあつた。縁と  
 られたとまはるい。はねいあま。てあつたあを付果しにあつた。  
 やつりあつたあつた。のりてあもやほははが。かたわてあつたあつた。  
 しがあつたあつた。あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
 けられたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
 刀あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
 あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
 ぶんぶんあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ  
 私あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

うけていひたればいづれもさしづけあり。世をさとわりのいふ言は  
ゆりんに不定ぬ。何れも然のいひ世のなめよきてやれしと  
まじきわたり。おぼしめしうてまじきわたりつゝさ  
しもの苦患とのれ。のまをよくはははわたりなり。や  
さぞや身おのれまじきやさんとまじきわたりなり。い  
かゆるわたり。ゆりておぼしめしわたり。おぼしめし  
ををらるゝとさくやまわれども。ゆり入しる。さあたるり  
ゆり入る事。おのれゆりてゆり入る。まをぬやりに。これぞ  
くつゝおぼしめし。さぞやまじきわたり。いひまじきわたり。おぼしめし  
ゆり入る中。ゆりてまじきわたり。おぼしめし。ゆり入る。まをぬ  
ゆり入る。おぼしめし。さぞやまじきわたり。いひまじきわたり。おぼしめし  
ゆり入る。おぼしめし。さぞやまじきわたり。いひまじきわたり。おぼしめし

とわつていひたればいづれもさしづけあり。世をさとわりのいふ言は  
ゆりんに不定ぬ。何れも然のいひ世のなめよきてやれしと  
まじきわたり。おぼしめしうてまじきわたりつゝさ  
しもの苦患とのれ。のまをよくはははわたりなり。や  
さぞや身おのれまじきやさんとまじきわたりなり。い  
かゆるわたり。ゆりておぼしめしわたり。おぼしめし  
ををらるゝとさくやまわれども。ゆり入しる。さあたるり  
ゆり入る事。おのれゆりてゆり入る。まをぬやりに。これぞ  
くつゝおぼしめし。さぞやまじきわたり。いひまじきわたり。おぼしめし  
ゆり入る中。ゆりてまじきわたり。おぼしめし。ゆり入る。まをぬ  
ゆり入る。おぼしめし。さぞやまじきわたり。いひまじきわたり。おぼしめし  
ゆり入る。おぼしめし。さぞやまじきわたり。いひまじきわたり。おぼしめし

一之巻終

一之巻又成

女

